

処方箋の煩雑さの軽減

## アドヒアランス状況から投薬の必要性を考慮し減薬に繋がった事例

【入院時処方内容】			
	薬剤名（一般名）	規格	1回量 用法
1	ミドロン酸水和物錠	50mg	1錠 起床時
2	ニフェジピン徐放錠	20mg	1錠 朝食後
3	バルサルタン錠	80mg	1錠 朝食後
4	アトルバスタチンカルシウム水和物錠	10mg	1錠 朝食後
5	パロキセチン塩酸塩水和物錠	10mg	1錠 夕食後
6	クエン酸第一鉄ナトリウム錠	50mg	1錠 夕食後
7	チザニジン塩酸塩錠	10mg	1錠 朝夕食後
8	テプレノン細粒10%	0.5g	0.5g 朝夕食後
9	シロスタゾール口腔内崩壊錠	100mg	1錠 朝夕食後
10	ガランタミン臭化水素酸塩錠口腔内崩壊錠	8mg	1錠 朝夕食後
11	イコサバント酸エチルカプセル	900mg	1包 朝夕食後
12	トリアゾラム錠	0.25mg	2錠 寝る前
13	抑肝散エキス顆粒	2.5g	2.5g 朝夕食後
14	ロキソプロフェンナトリウム水和物錠	60mg	1錠 毎食後
15	レバミピド錠	100mg	1錠 毎食後
16	酸化マグネシウム錠	330mg	2錠 毎食後
17	センノシド錠	12mg	2錠 寝る前
18	ランソプラゾール口腔内崩壊錠	15mg	1錠 夕食後

内服薬：18種類	薬剤管理：本人
服薬回数：5回	服薬支援：あり（一包化）

【退院時処方内容】			
	薬剤名（一般名）	規格	1回量 用法
1	リセドロン酸ナトリウム水和物錠	75mg	1錠 起床時
2	ニフェジピン徐放錠	20mg	1錠 朝食後
3	バルサルタン錠	80mg	1錠 朝食後
4	テプレノンカプセル	50mg	1カプセル 朝夕食後
5	シロスタゾール口腔内崩壊錠	100mg	1錠 朝夕食後
6	ガランタミン臭化水素酸塩口腔内崩壊錠	8mg	1錠 朝夕食後
7	エスゾピクロン錠	1mg	1錠 寝る前

内服薬：7種類	薬剤管理：本人（家族介助）
服薬回数：4回	服薬支援：あり（一包化）

【患者情報】 80歳代 女性 入院患者 （入院期間： 24日）

診療科：整形外科

主疾患 (複数記載可)	第11腰痛圧迫骨折				
病歴	高血圧症、高脂血症、逆流性食道炎、慢性胃炎、皮膚掻痒症、うつ病、鉄欠乏性貧血、骨粗鬆症、アルツハイマー型認知症				
生活状況・ 入院契機など 患者背景	自宅にて転倒しているところを家族が訪問時に発見し救急搬送。腰椎圧迫骨折の診断を受ける。高齢であり認知症もあるため手術などはせず、リハビリを中心とした保存的治療となる。数か所のクリニック受診歴あり。				
認知症	あり		介護認定	不明	
薬剤有害事象	あり	( 入院後検査により高Mg血症 )	副作用歴	なし	( )
アドヒアランス	やや不良	( )	アレルギー歴	なし	( )

ピラゾロン系解熱鎮痛消炎配合剤顆粒 1g 頭痛時、ロキソプロフェンナトリウム水和物貼付剤 50mg 1日1枚腰部  
お薬手帳持参。薬品情報提供書あり。

## 【key word】

薬学的な管理の実施、入院時の持参薬鑑別、薬歴聴取による処方提案（処方適正化）、多職種との連携  
副作用等による健康被害が発症した時の対応、退院指導時の情報提供によるアドヒアランスの向上・維持

## 【処方見直し前の問題点】

お薬手帳には直近の処方内容の記載（シール貼付など）はなく、薬情が直近情報。持参薬の残数と薬情、お薬手帳の内容を照合。本人は指示通り服用しているという認知症もあり、また、処方日数と比較し、明らかな残薬過多があり、アドヒアランスの不良が認められた。家族への聞き取りから薬の管理はおおむね本人が行っていたとの情報を得る。

処方2)～13)、16)～18) はかかりつけ内科、循環器科クリニックより処方。

処方12) は通常1錠服用していて、中途覚醒時や眠れない時に1錠追加して服用しているとのこと

18) は以前胸焼けがひどかった時に追加となっている。

入院時の主な検査結果：TP/Alb/AST/ALT/ALP/LDH/T-Bill/ $\gamma$ GTP/TG/AMY/HDL・C/LDL・C/Na/K/Clに著明な異常はなし  
BUN正常、Cr1.1mg/dL 体重41.0kg Ccr $\approx$ 25mL/min Fe70 $\mu$ g/dL Hb11.5g/dL

## 【処方提案の具体的な内容】

1. 高齢であり、腎機能の低下を認めたため高Mg血症リスクの確認の為、検査項目に血清Mg値の追加を依頼→Mg2.8mEq/Lとやや高値を示し、便秘コントロールもおおむね良好であったため酸化マグネシウム錠の中止を提案。→酸化マグネシウム錠は中止となりセンソノド錠頓用での対応となる。
2. 看護師に確認し、食欲もあり、現在胸焼け症状等もなく胃粘膜保護剤も服用していることから、PPIの一時中止、症状再燃時の再検討を提案→PPIおよびレバミド錠は中止。テプレノカプセルのみで要観察となる。
3. 本人聞き取りにより現在痛みは自製内であり、残薬の状況から消炎鎮痛剤の定時服用から屯用服用への変更を提案→頓用へ変更
4. 転倒骨折後であり、認知症もあるため高齢者薬物療法ガイドライン2015に記載の情報を識別時に提供し、転倒リスク、認知機能低下のリスクと服薬の必要性を考慮し、パロキセチン錠、チザニジン塩酸塩錠の中止・減量を提案。またトリアゾラム錠のエスゾピクロン錠への変更を提案→パロキセチン錠とチザニジン塩酸塩錠は効果に対する疑問と現状への必要性を考慮し中止となる。睡眠薬はエスゾピクロン錠1mgへ変更となる。
5. 一時期、認知症の進行による興奮症状がみられた際に追加となった抑肝散エキス顆粒について現在症状も落ち着いていることから継続の必要性について医師に確認→服薬数減少を目的に中止となる
6. 血清鉄、Hb値もおおむね正常であること、便秘症状の助長の可能性、服用薬剤数の多さ等も考慮し鉄剤の一時中止を提案→食事もとれているため一時中止となる。
7. 脂質関連の検査値は正常。脳血管イベント発生抑制の目的はあるが、スタチン製剤の10mg服用の必要性を考慮し減量を提案→アトルバスタチン、イコサセントエン酸とも一時中止となる。以後の検査値動向を見て再開を検討することとなる。

## 【多職種との関わり】

職 種	主な連携内容
医師	代替薬の提案を含めた処方提案、処方設計や検査の依頼など。服薬状況の情報提供。継続服薬の必要性の是非の確認
保険薬局薬剤師	退院サマリーの発行。継続的に必要な薬学的支援内容の情報提供
ソーシャルワーカー、地域連携室	服薬支援を含めた退院後の家族支援の依頼。退院サマリーの取り扱い方法の依頼
看護師	変更、中止の処方意図の情報提供と薬学的支援内容の情報提供

## 【減薬後の経過】

減薬後は痛みは頓用にてコントロール良好（屯用服用回数も減少）。消化器症状の訴えは無く経過良好。夜間は眠剤変更後も特に問題は無く安眠されている。転倒も起こしていない。便秘はおおむねコントロール良好。血清鉄の検査値変動、脂質関連の検査値変動は今のところ認められておらず中止後の経過は良好である。抑肝散中止後も認知症陽性症状の出現は認められておらず食欲、活気ともに向上している。ミノドロン酸水和物錠は当院採用のリドロン酸ナトリウム水和物錠へ変更となる。退院時、薬剤情報提供書（サマリー）を発行し、変更、中止の経過や理由と継続的に必要な薬学的支援の内容を記載。